

最近の主な取組について(自治体)

福祉のまちづくりのための施設整備
バリアフリーガイドライン【本編】
バリアフリーガイドライン【別冊】

- 府域全域でより高い水準でのバリアフリー化が進むよう、**大阪・関西万博で先導的に展開されたバリアフリー基準や取組の反映など内容を充実化**

現行 大阪府福祉のまちづくり条例ガイドライン
《平成28年策定、令和5年改訂》

- 施設のバリアフリー設計、維持管理時の配慮事項等をまとめた指針として策定
- 条例に基づく義務基準の解説に加え、望ましい基準や事例等を紹介



改訂の主なポイント

1 大阪・関西万博での基準、取組の反映

- 障がい当事者等が参画する現地検証を経て、**万博での先導的なバリアフリー基準や取組を反映**

《主な反映内容》

トイレに求められる機能や仕様をより具体化・明確化

- フラッシュライトの設置位置
- 大人用介護ベッドの大きさ・表示
- オールジェンダートイレ（男女共用トイレ）など、多様なニーズに応じた配置計画
- わかりやすいピクトグラム 等



カームダウン・クールダウン

- 必要な機能や仕様の具体化・明確化



柔らかな素材の壁

カームダウン・クールダウンルーム
（大阪ヘルスケアパビリオン）

視覚障がい者の案内誘導

- IT技術を活用した案内アプリの事例を追加

視覚障がい者の移動を支援する
音声情報提供アプリ『ナビレンス』

2 「当事者参画による設計・計画」の促進

- ワークショップ等により**施設の設計・計画段階で障がい当事者等の意見を積極的に取り入れた事例**を追加

《掲載事例》

- 大阪ヘルスケアパビリオン
- 日本館
- 関西国際空港 等



ワークショップの様子（大阪ヘルスケアパビリオン）

3 既存施設（小規模店舗）の改修等促進

- **バリアフリー改修のポイントや望ましいソフト対応の例**を追加



持ち運び可能な可搬型スロープ



点字メニューの常備



筆談による対話

4 よりわかりやすい構成へと見直し

- 設計者等の声を踏まえ、**推奨基準と義務基準、解説等が一目でわかる構成**に見直し。併せて、**推奨基準→義務基準に記載順を変更**
- ニーズに応じた活用が進むよう「**当事者参画**」「**既存改修**」を分冊化